

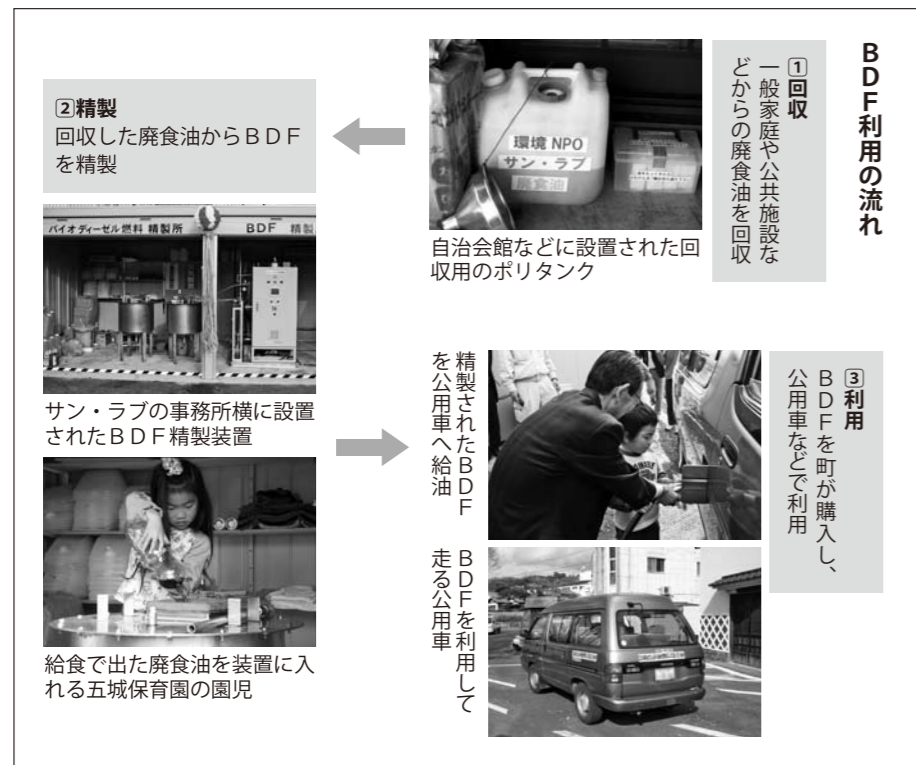
燃料も地域内で循環しよう

環境NPOサン・ラブにBDF精製装置が完成

内子町は、エコロジータウンを目指す取り組みの一環として、NPO法人「環境NPOサン・ラブ」(入江英昭理事長、以下サン・ラブ)と共同でバイオ・ディーゼル燃料(BDF)の利用を進めてきました。このほど、国の補助事業を利用してサン・ラブが設置を進めていたBDF精製装置が完成し、11月27日、その披露式が行われました。

内子町内でBDFの精製が可能に
このBDFを積極的に利用して、資源の再利用と地域内循環を図り、廃棄物の削減や地球温暖化防止につなげようと、内子町はサン・ラブと協働で、20年1月から廃食油の回収を開始。町外の業者に精製を委託して、利用してきました。このたびの精製装置完成により、今後は

- **BDFのメリット**
植物を原料としているため、燃やしても地球温暖化防止協定上の二酸化炭素排出量はカウントされない。
- **不要な油を回収する**
で、河川などの水質汚濁防止になる。
- **軽油と違って排気ガス中の硫黄酸化物や黒煙の発生量が少なく、大気汚染の防止になる。**



地球温暖化防止に向けて身近なことから始めよう
現在、内子町では2台の公用車がBDFを利用して走っています。今後はさらに、給食センターのトラック、スクールバス、ゴミ収集車など、13台に増やす予定です。またボイラー燃料として、公共施設の冷暖房、農業、建設機械にも利用を検討していきます。

町およびサン・ラブでは、廃食油を回収するためのポリタンクを、町内の各自治センターや自治会館などに設置しています。当面の回収量の目標は、年間約8千200リットルです。

これまでゴミとして捨てていた廃食油。しかし、それをBDFとして町内で循環させることで、ゴミの削減や地球温暖化の防止、美しい川を守ることに繋がります。皆さんの家庭から出る廃食油を、捨てないで近所の回収場所へ持って行く。一人一人のその行動が「エコロジータウン内子」をつくっていくのです。みんなで、身近なことから取り組みを始めましょう。

石畳産の新そば 香りと味わいを堪能 企業組合「石畳むら」新そばまつり

昨年2月に開店した「そば処石畳むら」で11月22日、新そばまつりが開かれました。同店は、地元食材を生かした地域ビジネスの発展を目指す企業組合「石畳むら」(亀田強代表理事)が運営。町外から訪れる人も多く、中には10回以上通っている

常連さんもいるそうです。新そばまつりでは、同地区で栽培された2種類のそば粉を使って打った「十割そば」を提供。訪れた人たちは「やっぱり香りがいいね」などと話しながら、おいしそうにそばをすすっていました。



「十割そばが食べられると聞いて松山から来たというお二人」

中学生の1日警察官 からりで安全を呼びかけ 内子中学生職場体験授業

何かと慌ただしくなる年末を控え、大洲警察署内子交番(宇都宮昭彦交番所長)は11月19日、(株)内子フレックスパークからりで、交通安全や振り込め詐欺の被害防止を呼びかける啓発活動を行いました。

好ひとみさん(内子中2年)も参加。買い物客に啓発チラシなどを配り、注意を呼びかけました。警察官にあらがれているという三好さんは、活動の後で「将来は自分も地域に貢献できる仕事があったら」と感想を語っていました。



あこがれの警察官の制服を着て、笑顔で声をかける三好さん

町の健全財政に貢献 監査委員協議会表彰 河野完一朗さん(74歳) 石畳7

全国町村監査委員協議会(新見光男会長)による表彰の伝達式が11月19日、内子分庁で行われ、河野完一朗さんに表彰状が授与されました。

河野さんは、「公平・公正な監査ができるように努力してきました。監査を通じて、財政だけでなく行政全般に携わることができ、大変勉強になりました。表彰は、皆さんの支えがあって続けられたおかげです」と感謝の気持ちを語っていました。



笑顔で表彰状を手にする河野さん